



東日本大震災・女性支援ネットワーク
Rise Together for Women in East Japan Disaster

災害・復興とジェンダー
～ 見えてきた女性支援の課題～

調査チーム報告

池田恵子、柘植あづみ、
吉浜美恵子、ゆのまえ知子

協力：Oxfam Japan

調査の目的

「調査チーム」がある理由

1. 女性の視点から震災・津波・原発事故の被災状況、避難生活や生活再建の状況について調べ、記録することによって、女性のニーズを知り、支援や政策提言につなげる
2. 女性の視点から、将来の防災や災害時の対応に備える

調査の概要

- 「支援者調査」
支援者への聞き取り調査
- 東日本大震災「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」に関する調査
支援者・被災者へのアンケート調査
- 「フォトボイス」
被災者の参加型アクション調査



東日本大震災・女性支援ネットワーク
Rise Together for Women in East Japan Disaster

「支援者調査」報告

とりまとめ担当

柘植・池田

「支援者調査」の内容

- 今回の支援活動の経験について
- 支援を行うことになった経緯について
- 女性に対する支援の内容
- 女性（または男性）の被災者のニーズを理解しそれに応えるための工夫は
- 弱い立場にある人々や集団のニーズにより効果的に応えるための工夫は
- 支援の課題や成果

調査協力 29 団体・グループ・個人

(2012年1月5日現在)

- A 女性から女性への支援や、男女共同参画・ジェンダー主流化などの視点から、被災地・被災者の支援をしている
- B 被災地・被災者の支援をしている
- C 行政やその外郭団体
- D 医療関係
- E 学校・教育関係
- F 市町村議会議員
- G さまざまなリーダー役割を担っている人



事例：女性がリーダーシップをとるということ 1

1. 避難所指定されていない施設に大勢が避難した。施設から「自主運営してほしい」と言われ、代表者を選ぶことになったが誰も立候補しない。その地域ではほとんど女性はリーダーになっていなかったため、「女がそういうことしていいのか」と思ったけど、誰かのために何かしたいという気持ちがあり、手を挙げた。女の自分が、という気持ちもあった。施設の人から「是非に」と言ってもらったので引き受けた。「女がでしゃばることではない」と思われていたと思う。

(聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。)

事例：女性がリーダーシップをとるということ2

2. A地域にある仮設の役職は、代表、副代表、事務局長、副事務局長、会計、各棟の班長からなる。

（女性リーダーがいないことは）いま言われてそうだなと思った。実際に班長の仕事をしているのは班長の妻や（息子の）お嫁さんなんで、そういえば女性のリーダーがいてもいいなと思いました。三役に女性がいないのはだめですね。手伝いしてくださいと班長にいても、実際にしてくれるのは女性なんですね。（仮設住宅の役員）

（聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。）

事例：女性がリーダーシップをとるということ 3

3. 自治組織は、「みなさんで、なんとかしませんか。」
(中略) オバちゃんパワーもいた。特に食事について。
「じゃあやるかー」って。一人手を上げると「じゃあ。私も。私も、私も」。若いお母さんたちは、いたのに、誰も手を上げない。や「やるか」というのは結構年配の人だった。

4. 対策本部には女性が一人いた。年上の男性ばかりなので、厳しかったと思う。一度、疲れないと聞いたが、大丈夫と答えていた。しかし、業務をこなすのが精いっぱい、とても女性の立場からは考えられなかったと思う。

(聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。)



事例：女性の情報入手・活用と復興への参画 1

1. 女性は情報を得にくい。入手しない。あることすら知らない。要望を発信できた人だけに支援が行く。
2. 組合が復興計画を出すときに、女性にはまったく情報が入ってこなかった。一緒に立ち直っていかなきゃならないときに、女性に情報が入ってこない。だから不安だというのを女性から訴えてこられる。

(聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。)



事例：女性の情報入手・活用と復興への参画 2

3. 市役所でも復興対策を立てるが、女性が入っていないので、例えば、家電製品の規格が1種類しかない。女性が入っていたら、家族構成にあわせた家電製品を選ぶようにしたのに。

4. 障がい者からの要望について、行政の対応は市町村によって違う。地元である県や市町村には、「一緒に考えて行きましょう」という対応をするのは大事、住宅改修ができないとお風呂にも入れなくて困っている人がいますよといったことを伝えていくのが大切。

(事例は聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。)

事例：女性の情報入手・活用と復興への参画3

5. 解雇は多い。水産も。女性の雇用がなくなってしまった。男性はガレキ処理をすれば日当が出る。市の緊急雇用を使って。漁業の復興になるので。女性が炊き出しをしても日当は出ない。

6. 社会保険をはずされた人がいる。解雇はしないけど、あんたは夫の扶養者になりなさいとか、そういう形もでてきた。

(聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。)

事例：女性の情報入手・活用と復興への参画 4

7. 自宅避難者のニーズ調査をしていた。モノが欲しいという人もいたが、情報が欲しい、これからの不安について話す人、知り合いの行方を知りたいという人などいろいろだった。1週間ごとに必要なものの状況が変わったため、自分たちにものを託した人たちの思いを届けたいと、毎週通った。

8. 化粧品がぜいたく品という認識はあった。企業の協力を得て、フェイスマッサージをした。眉のカットなども。男性たちは最初是不審そうだったが、女性たちが「3月11日の前に戻ったみたいだ」といったり、ニコニコになったのを見て男性も喜んだ。

(聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。)



考察（２）

女性の情報入手・活用と復興への参画 5

9. <これから復興に向けて> 女性の声を聞いてくれるような地域づくり。変わらないと思う反面、声出して行かないとならないと思う。男尊女卑ではないけれど。組合は男女の分担が明確になっているのが影響しているのだろうか。女は仕事をして、家事、育児、介護をしている。（若い男性は）家事や育児をしている旦那さんもある。次の世代は変わるかもしれない。

（聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。）

事例：女性支援者が直面した課題 1

1. 避難所の炊き出しリーダーをした。朝5時に行って、ご飯のスイッチをいれて、調理した。昼食、夕飯も支度した。最初にご飯も箸もセットして、洗い物や掃除もしたが、これからもっと強く生きていかなきゃならないんだから、やれることはやりましょうよ、トイレの掃除やごみを袋に集めたりスリッパも揃えましようと言った。わかる人はわかってくれた。

自治会長から支援物資、衣類の配給をまかされた。あるとき、赤ちゃんのいる女性が避難所にオムツをもらいに来たら「家がある人がもらいにくるんじゃない」と言われて泣いて帰ったとあとから聞いた。それで謝った。心まですさんでしまったのかと、リーダーとしてどうしたらいいのかと、落ち込んだ。

（聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。）

東日本大震災女性支援ネットワーク

事例：女性支援者が直面した課題 2

2. (女性たちが炊事、掃除などを担当することについて) ある意味(性別)役割分業はできていた。トイレをつくろう、炊事場をつくろうというときに、男性がやっていました。調理場が、使いづらいなので、男の人たちが風があたりないようにしてくれた。そういうのは男の人の役割だった。
3. 避難所の炊き出し。支援団体と地域団体で炊き出しをしたが、ほぼ全員女性だった。このような時には組織力がないと活動できない。ここで女性だけがなぜ、といいだせなかった。

(聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。)

事例： 女性支援者が直面した課題 3

4. 女性は強いと思う。おばあちゃんが「過ぎたことはしょうがない。あんたたちもがんばりな」という、若い女性も「子どもたちのために頑張ろう」という。夫と息子が帰ってこない80代の女性は、一人で、日々変わらない生活をしている。強いなと思う。だから、女性として女性を応援したいと思う。

(聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。)

事例： 女性支援者が直面した課題 4

5. 自分も避難しているんだけど、福祉職のため、何をするにも頼られる。
6. 避難所から、日中は職場に子どもを連れて行って、仕事をした。
7. 私が責任者として学校に一人で泊まったことがあった。本当は（女性一人で）怖かったんだけど。

（事例は聞き取り調査からの事例のため、口語になっています。また、プライバシーを守るために、氏名、地名、団体名はすべて削除しました。）

結果の中間まとめ（１）

避難と避難生活の課題

避難所の運営・リーダーシップ、仮設住宅の運営・リーダーシップ、避難時の性別役割分業（炊き出し、掃除、洗濯などの負担）、自宅避難者の困難、避難所・仮設住宅での業務（名簿、物資配布など）、避難所のスペース活用（女性用スペースなど）、トイレ・入浴の課題、女性と子どもの安全、子どもの一時預かり、災害時要援護者の避難、仮設住宅の施設設備・改修

女性・多様な被災者のニーズをいかに引き出すか

- ネットワークの活用、相談・女性支援の実施

そのニーズをいかに支援につなげるか

- 連絡手段の確保と活用、情報の入手と発信
- 意見表明、意思決定

結果の中間まとめ（２）

復興に向けての生活の再建

女性のケア役割がもたらす課題の解消
心身の健康の回復と維持、孤立を防止
女性・子どもへの暴力の防止と対応
個人・世帯の経済的安定（雇用・収入）

女性・多様な被災者のニーズをいかに支援につなげるか
●復興に関する情報の入手と発信、復興制度への反映

復興への参画

●行政の各部署との連携、男女共同参画の施策、
コミュニティの自治

結果の中間まとめ (3)

支援者を支援するために

女性支援者の支援環境、家族関係・同僚との関係、経済的な保障、ハラスメントの防止、被災者であり支援者である困難への理解

「支援」の方法について学ぶ

- ジェンダーへの理解、脆弱性への理解
- 被災地の文化・社会についての理解
- 気持ちを大切にする支援、自立に向けての支援



東日本大震災・女性支援ネットワーク
Rise Together for Women in East Japan Disaster

東日本大震災
「災害・復興時における
女性と子どもへの暴力」
に関する調査報告

とりまとめ担当 ゆのまえ知子

調査の背景と目的

- ❖ 海外では災害時に女性への暴力が増加することが、調査によって明らかにされている
- ❖ 日本では調査がほとんどされていない
- ❖ 「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」調査によって、日本における実情と対策を明らかにすることが目的である

調査の概要

調査方法

- 被災地の支援活動経験者（相談員、ボランティア）、被災地・他府県の専門職（助産師・医師・臨床心理士・保健師など）の方に記入を依頼
- 書留で返送、2012年1月28日現在31票回収

調査内容

被害を受けた女性・子どもの年代、性別、被災状況、被害の状況（内容・場所など）、加害者の年代、性別・被災状況、求援行動、援助者の対応、必要な支援など

調査で報告された被害*件数

(2012年1月28日現在)

	成人	子ども	計
岩手・宮城・福島	18	7	25
その他（山形・埼玉・東京など）	4	2	6
計	22	9	31

* 被害の中には、精神的及び言葉による暴力、性的暴力、身体的暴力、経済的暴力を含む

被害が起きた場所（1月28日現在）

- ❖ 被害者の自宅（被災前の住居）
- ❖ 避難所
- ❖ 仮設住宅
- ❖ 避難していた家
- ❖ 路上・公園
- ❖ その他

被害が起きた場所はさまざまである

被害の状況例

- 避難所、仮設、借り上げ住宅などに、別れた夫が、メールや電話で脅かしてくる
- 避難所のダンボールの更衣室で、のぞかれた
- 原発への不安から妻へのDVが始まった
- 半壊の家への帰宅途中、街頭のない暗い道で、後ろからはがいじめにされた。必死で抵抗して走って逃げた

加害者

- 配偶者（内縁・事実婚を含む）
- 見知らぬ人
- ボランティア／支援者
- 家族／親戚

など多様である

調査協力をお願い

調査は継続中です➡次ページの連絡先に連絡ください
協力(回答)をお願いしたい方

- ❖ 被害にあった女性や子どもに話を聞いた・相談を受けた方(家族・親戚、友人、教師などからの話や相談を含む)
- ❖ 被害にあった女性・子どもの診察や診療にかかわった方
- ❖ その場に居合わせた方・目撃した方
- ❖ ご自身が被害にあわれた方(子どもの場合は保護者の方)

連 絡 先

❖ご連絡くださった方に、調査票をお送りします
(郵送のみ)

❖連絡先:

東日本大震災女性支援ネットワーク 調査チーム

TEL. 080-3065-9479

Eメールアドレス rtvawd@gmail.com



東日本大震災・女性支援ネットワーク
Rise Together for Women in East Japan Disaster

参加型アクション調査 フォトボイス 報告

とりまとめ担当 吉浜美恵子

フォトボイス

目的:被災した女性や支援に関わる女性が、写真と声を通し、自分達の経験を記録し、意味づけ、復興・支援の課題を明らかにし、より効果的な復興・支援について対応策や提言を発信していく過程を支える

付随的な目的:

- 被災した女性の孤立緩和
- グリーフ・ケアの一助
- 参加型アクション調査
- 東日本大震災・女性支援ネットワークの使命と合致:「被災した女性たちが救援や復興に主体的に関わることができるような過程を支えるとともに、救援・復興に関わる団体・個人がジェンダーの視点を取り入れて救援活動および復興計画の策定・実施するための推進役となる」



東日本大震災女性支援ネットワーク

フォトボイス・プロジェクト実施の流れ

2011年6月～8月(倫理委員会の承認獲得後)

- 現地パートナー団体と参加者募集:福島(4名、後5名)宮城(9名)
 - ・女性の自立を応援する会
 - ・みやぎジョネット
- カメラの簡単な操作や、肖像権やプライバシーなど写真撮影の際の倫理的な課題についての説明を含むオリエンテーション
- 被災の経験や復興への希望などについて写真を撮影
- グループ・ミーティングを各市で2回ずつ実施(宮城は2グループx2)
 - 撮影した写真を投影し、写真が伝える・訴えるメッセージ、撮影者の心情を話し合う
 - 属性や被災の状況など背景の異なる参加者が撮った写真の共通点や相違点
 - 復興・支援の課題と提言

2011年夏 オリンパス(株)からデジタルカメラとICレコーダーをフォトボイス事業に寄贈

2011年秋 カメラ映像機器工業会 CIPA「フォトエイド」基金助成受ける

2012年1月～ フォローアップ・ミーティング



東日本大震災女性支援ネットワーク

調査結果1. 災害・復興支援の課題と提言

2012年1月29日の報告会では、以下のテーマに関連する参加者が撮影した写真を投影しながら、調査から見えてきた災害・復興支援の課題と提言に向けての示唆について発表した。写真は東日本大震災・女性支援ネットワークのホームページに近く掲載予定。

1. 避難？所： 管理的運営、食事、心理的ケア
2. 原子力発電所事故と放射能： 警戒区域への訪問、線量計測、情報不足、原子力発電の“恩恵”？
3. 支援・復興における優先順位への疑問
4. 分断される被災者とコミュニティー
5. 社会心理的影響： 瓦礫の置き場所、査定の色分け、おざなりな修理
6. 女性の安全・安心
7. 防災：津波訓練



調査結果2. 参加型アクション調査としての フォトボイスの役割と効用

- 参加者の心理的な動き：感情の認識と発散(カタルシス)
- 相互理解、相互援助、孤立感緩和
- 個人の経験の社会的意味付け
- 発信する意欲と意義：「表現する手段を得た」
- 構造的な課題・問題への分析と提言
- グリーフ・ワークとしてのフォトボイス
- 支援者への支援としてのフォトボイス



考察と中間まとめ 1:被災経験の意味づけ、 課題・提言の発信

- ミクロ視点・側面から見えてくるもの
 - 主流メディアや“専門家”とは異なる視点
- 写真とボイスの組み合わせ:どちらか一方では記録・表現が難しい事象や心理を伝える
- 主観的視点から相互主観性へ
- 復興への主体的参加

考察と中間まとめ 2: 支援の課題と可能性 (支援の一助としてのフォトボイス)

多様な災害の影響

- 心的外傷(後)ストレス障害 (Post)traumatic stress disorder (PTSD)
- 心的外傷(後)成長: (Post)traumatic growth (PTG), AKA Adversarial growth ←フォトボイス

多面的、多様な方法による支援 ←フォトボイス

- 1対1、グループワーク
- 専門家、草の根・地域に根ざした支援

支援者への支援 ←フォトボイス

「非常時だから仕方がない・我慢」から「非常時だからこそ、尊厳と人権尊重を」



今後の予定

1. フォトボイス

- 岩手
- 宮城 地元NGOとのコラボレーション：支援の一方法としてのフォトボイス

2. 発信や提言に関するスキルアップ講座

3. インターネット、パネル展示、口頭発表など、マルチメディアによる発信

4. 参加型ワークショップ





東日本大震災・女性支援ネットワーク
Rise Together for Women in East Japan Disaster

copy right 2011

Rise Together

URL: www.risetogetherjp.org

email: office@risetogetherjp.org

調査にご協力・参加いただいた皆様に、
心よりお礼を申し上げます。

調査チーム一同